学力向上　今後の取組み

令和６年８月 19 日

１．組織的な取組の徹底と強化

- **各学校、学力向上プランの徹底した取組と検証**
  重点取組・取組指標・検証指標のいっそうの具体化と統一した取組の徹底
- **教科部会の強化**
  中学校教科部会焦点化した取組と定期的な検証・改善
- **「たけたん小テスト」継続**

２．授業改善及び授業力向上

- **「つけたい力」の明確化**
  各種調査問題の分析，単元に入る前の単元構想
- **授業を見合う時間の創出**
  交流授業の推進（対面・遠隔）
  モデルとなる授業の参観
- **放課後学習会**
  経験の浅い教職員の支援

【具体的な内容】

１．組織的な取組の徹底と強化

【竹田市】竹田市学力向上プランの徹底および検証・改善（学力向上推進委員会），各教科部会の支援
【学校】各種調査から明らかになった課題解決に向けて、自校の学力向上プランを見直し、取組の徹底を全教職員で確認
【教科部会】各種調査から明らかになった課題解決に向けて、焦点化した取組の徹底と部会での定期的な検証・改善
※10 月 1 日の竹田教育研究会教科部会にて、焦点化した取組を徹底して取組むことを確認。単元テストや定期テスト、１２月の竹田市標準学力調査後等で、検証・改善を行なう。

２．授業改善及び授業力向上

【竹田市】授業改善にむけての研修，ICT 活用等の交流授業の支援，授業参観，好事例の紹介
【学校】単元を通して付けたい力の明確化，授業評価，交流授業の推進・実施，管理職による授業参観の勧め
【教科部会および学年部会】授業参観・交流授業の実施（授業づくりや指導案検討，T-T）

全国学力・学習状況調査R6　　小６　国語　　令和６年　４月実施

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		全体	観点別			領域別						回答形式
			知識技能	思判表	態度	言葉特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話す聞く	書く	読む	記述式
R６	竹田市	66.0	66.9	64.7		59.9	84.0	78.2	56.0	68.1	71.1	69.3
	全国	67.7	69.8	66.0		64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7	64.6
	差	-1.7	-2.9	-1.3		-4.5	-2.9	3.6	-3.8	-0.3	0.4	4.7
R５	竹田市	69.0	69.0	68.8	-	72.5	60.1	-	79.2	29.8	71.5	53.2
	全国	67.2	68.9	65.5	-	71.2	63.4	-	72.6	26.7	71.2	51.1
	差	1.8	0.1	3.3		1.3	-3.3		6.6	3.1	0.3	2.1
R４	竹田市	64.0	71.7	58.8		69.2		83.8	63.1	51.5	60.4	49.7
	全国	65.6	70.5	62.0		69.0		77.9	66.2	48.5	66.6	51.3
	差	-1.6	1.2	-3.2	0.0	0.2	0.0	5.9	-3.1	3.0	-6.2	-1.6
R３	竹田市	69.9	69.9	54.3					71.1	55.8	36.6	31.9
	全国	68.3	68.3	62.1					77.8	60.7	47.2	40.2
	差	1.6	1.6	-7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	-6.7	-4.9	-10.6	-8.3

■　つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
１二（１）	話し言葉と書き言葉の違いに気づけなかった。	73.1	75.9	-2.8
２三ア	「競技」を正しく書けていなかった。	37.0	43.4	-6.4
２二	目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが難しかった。	60.5	56.6	3.9

■　課題

〇話し言葉と書き言葉の性質の違いが理解できていない。

〇漢字を書く問題での正答率が低く、漢字の習得ができていない。

〇条件に沿って自分の考えを記述することが難しかった。

■　授業で気をつけること

〇日頃の授業の中で、話し言葉と書き言葉の違いを意識させて、意見を書かせたり発表させたりする。

〇音読をさせたり、漢字を書かせたりして、漢字の読み書きを定着させていく。
〇問題の量が多いため、授業中や毎日の宿題で音読を多く取り入れていく。

〇日頃の授業の中で、条件に沿って意見を書かせたり、自分の意見を理由とともに書かせたりすることに慣れさせていく。

全国学力・学習状況調査R6　　小６　算数　　令和６年　４月実施

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		正答率	観点別			領域別					回答形式
		全体	知識技能	思判表	態度	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	記述式
R６	竹田市	60.0	69.1	48.7	-	63.0	62.6	-	46.5	61.1	46.6
	全国	63.4	72.8	51.4	-	66.0	66.3	-	51.7	61.8	51.0
	差	-3.4	-3.7	-2.7		-3.0	-3.7		-5.2	-0.7	-4.4
R５	竹田市	59.0	62.7	53.4	-	61.4	45.0	-	68.0	63.5	43.8
	全国	62.5	67.2	58.5	-	67.3	48.2	-	70.9	65.5	47.3
	差	-3.5	-4.5	-5.1		-5.9	-3.2		-2.9	-2.0	-3.5
R４	竹田市	61.0	67.4	53.8	ー	69.5	60.8		48.3	66.7	56.5
	全国	63.2	68.2	56.7	ー	69.8	64.0		51.3	68.7	60.2
	差	-2.2	-0.8	-2.9		-0.3	-3.2	0.0	-3.0	-2.0	-3.7
R３	竹田市	64.0	68.2	59.5	ー	60.8	45.7	71.4	67.6	72.6	47.3
	全国	70.2	74.1	65.1	ー	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0	53.0
	差	-6.2	-5.9	-5.6		-2.3	-12.2	-3.4	-8.3	-3.4	-5.7

■　つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
３（３）	直径２２㎝のボールがぴったり入る体積を求める式を書く	29.4	36.5	-7.1
４（３）	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが早いかを判断し、そのわけを書く	21.8	31.0	-9.2
４（４）	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	42.0	54.1	-12.1

■　課題

・全体的に全国平均より低い。

・球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉えることが不十分であった。このことから、一辺の長さが分からず、式をつくることができなかった。（無回答：市12.6%、全9.8%と無回答の割合が高い）

・道のり、速さ、時間の関係性（「道のりが等しい場合にはかかった時間が短い方が速さは速い」「道のり÷時間で速さを求めた場合、数値が大きい方が速い」）や意味の理解が不十分であり、記述内容に不足がある。

■　授業で気をつけること

・問題との出会いの場面（導入）では、文章を図や絵、数直線等でイメージを持たせる。また、本時で何を求めたいのかや、既習との違いなどを明確にしながら授業を行う。

・展開では、式だけでなく、図や数直線、グラフ等を関連付けた授業展開（板書の位置づけ）をする。また、自分の考え方を算数用語を用いたり、説明に過不足ないように言葉で書く時間を設け、意味理解を深める。

・単元ごとに知識・技能を確認する時間を設け、計算力や数量関係等の定着を図る。(プリント・e―ライブラリー等のタブレット学習)

全国学力・学習状況調査R6　　中３　国語　　令和６年　４月実施

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		全体	知識技能			領域別						回答形式
			知技	思判表	主体的	言葉特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話す聞く	書く	読む	記述式
R6	竹田市	57.0	59.7	54.7		57.4	54.8	76.5	58.6	65.2	46.5	45.8
	全国	58.1	62.0	55.4		59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9	45.5
	差	-1.1	-2.3	-0.7		-1.8	-4.8	0.9	-0.2	-0.1	-1.4	0.3
R5	竹田市	68.0	68.7	67.8	-	59.7	64.7	77.3	83.2	60.9	59.7	68.1
	全国	69.8	69.4	69.7	-	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7	68.0
	差	-1.8	-0.7	-1.9		-7.8	1.3	2.6	1.0	-2.3	-4.0	0.1
R4	竹田市	70.0	69.3	61.9		72.3	39.0	73.5	66.2	39.0	66.9	55.1
	全国	69.0	69.0	62.3		72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	57.4
	差	1.0	0.3	-0.4	0.0	0.1	-7.5	3.3	2.3	-7.5	-1.0	-2.3
R3	竹田市	63.0						73.2	83.2	54.9	45.4	55.5
	全国	64.6						75.1	79.8	57.1	48.5	56.0
	差	-1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-1.9	3.4	-2.2	-3.1	-0.5

■　つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
1三	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	35.7	44.0	-8.3
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	55.7	64.5	-8.8
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	75.7	81.4	-5.7

■　課題

〇意見と根拠など、情報と情報との関係について理解しているかを確認する問題では全国値に比べ、8.3ポイント下回った。

〇文章の全体と部分の関係から、主張と例示との関係ととらえることができるかを確認する問題では全国値に比べ、8・8ポイント下回った。

〇目的や意図に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかを確認する問題では、全国値に比べ5.7ポイント下回った。

■　授業で気をつけること

〇説明的文章や文学的文章を用いる授業では、内容把握だけにとどまらず、「事実と意見の読み分け」「段落相互」「主張と例示の関係」など、文章を俯瞰的に学ぶ時間を設定する必要がある。「文章の内容を読むために読む」ではなく「主張と例示の関係を把握するために内容を読む」など、文章の特色に応じて、ふさわしい指導事項を設定し、教師が意識して授業を組み立てることが求められる。

〇情報の整理分類に課題があると考えられるため、情報を集めたのちに観点ごとに分類するなど、情報の整理分類の仕方を学ぶ授業を組み立てる必要がある。

全国学力・学習状況調査R6　　中３　数学　　令和６年　４月実施

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		正答率	観点別			領域別				回答形式
		全体	知技	思判表	主体的	数と式	図形	関数	データの活用	記述式
R６	竹田市	48.0	59.7	23.8	-	47.0	35.1	57.4	51.5	23.8
	全国	52.5	63.1	29.3	-	51.1	40.3	60.7	55.5	29.3
	差	-4.5	-3.4	-5.5		-4.1	-5.2	-3.3	-4.0	-5.5
R５	竹田市	45.0	50.0	34.6	-	55.1	24.9	49.4	41.7	34.6
	全国	51.0	55.7	41.6	-	63.0	33.2	51.2	48.5	41.6
	差	-6.0	-5.7	-7.0		-7.9	-8.3	-1.8	-6.8	-7.0
R４	竹田市	53.0				61.3	43.4	41.9	61.5	37.9
	全国	51.4				57.4	43.6	43.6	57.1	36.2
	差	1.6	0.0	0.0	0.0	3.9	-0.2	-1.7	4.4	1.7
R３	竹田市	55.0				62.1	45.4	57.8	54.9	32.0
	全国	57.2				64.9	51.4	56.4	53.8	35.0
	差	-2.2	0.0	0.0	0.0	-2.8	-6.0	1.4	1.1	-3.0

■　つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
８（２）	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	6.1	17.1	-11.0
９（１）	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	17.4	25.8	-8.4
2	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	40.0	52.5	-12.5

■　課題

８(２)グラフから事象を読み取り説明する問題であるが，無解答率が18.3%もあることや次の(３)の正答率が高いことから，問題の意味が理解できていないというよりは，「どう説明していいかわからない」子どもが多いと思われる。

９(１)少し応用的な合同な図形の証明〔間の角が等しいことを説明しにくい〕であることもあり，無回答率が33.9%と最も高い。学習していたときは解けていても，しばらくその領域から離れると，手法を思い出せなかったり諦めたりしてしまう子どもも多い。

２等式の変形を，移項のときに符号を変えていなかったり，多項式の除法を一部だけで行ったりと計算や等式に関する基本技能が定着していない。

■　授業で気をつけること

〇どの領域でもそうであるが，特に関数や証明の領域では，根拠を明確にさせそれを数学用語を用いながら説明させる機会を多く取り入れ，また互いに説明や質問をしあうことで，理解を深め数学的語彙力や説明の手段の種類を増やすことを狙っていく。

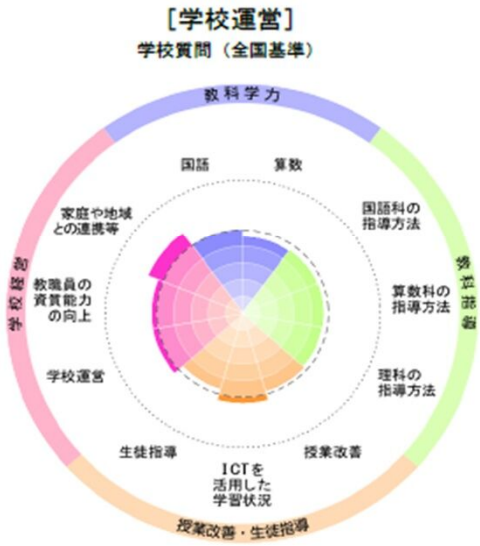
〇１つ１つの領域で知識や技能を定着させていくことを工夫していくことと併せて，課題や定期テスト・実力テストを利用して，そのとき学習していない分野についての復習も継続的に取り組ませていく。また，個に応じて質問を受ける機会や解説をする機会を持ち，難易度の高い問題でも解決しようとする姿勢を育む。

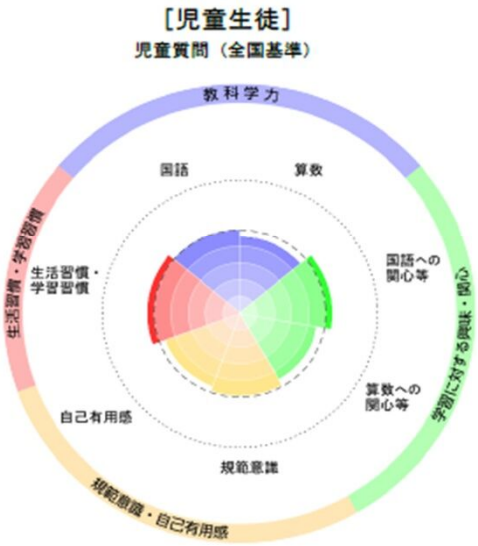
〇授業開始時の小テストなどで，前時の復習や確認をしたり，少し前の既習事項の問題を解かせたりすることで，基礎基本の力を定着させ，利用すべき公式や計算ルールの区別をつけさせる。

全国学力・学習状況調査Ｒ６　結果チャート

【小学校】

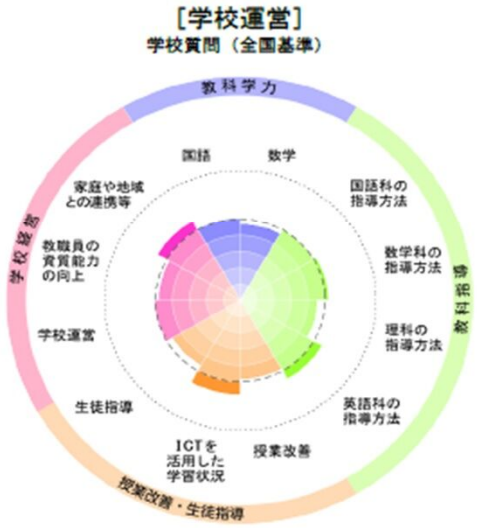
学校数	児童数
10	119

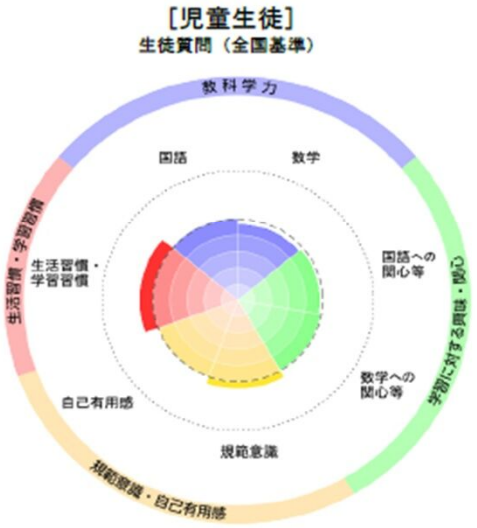




【中学校】

学校数	生徒数
4	115





【チャートを用いた分析】
【学校運営】
・家庭との連携、ICTの活用、（小）教職員の資質向上（中）英語科の指導方法が進んでいる
・生徒指導、教科の指導がもう少し
【児童生徒】
・生活習慣や学習習慣、規範意識が高い。
・算数・数学の力及び関心が低い。